

2022年4月15日(金) 第2870回例会 形式:対面 天候:<曇り 合唱:奉仕の理想

会長 室伏 学 幹事 望月 博文

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内 TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

室伏 学

一昨日4月13日に、第9グループ奉仕デーと称して、午前には小田原城クリーンアップ大作戦、午後には合同例会が開催されました。当クラブからも多くの方にご参加いただきました。ご参画くださった方はお疲れさまでした。

少し間が空いてしまいましたが、3月6日の国際奉仕委員長会議の内容で、地区リソースネットワーク・ワーキンググループ担当の向井稔委員の講演について、ご報告いたします。テーマは「国際奉仕について考える」~(チャレンジしよう国際奉仕)でした。

国際奉仕プロジェクトを進めるにあたっては、様々な制約、困難等を克服する必要があります。クラブ内で具体的に、だれが、どこまで、時間的・物理的に活動を行うことが可能か、「クラブ全体の総意」が醸成されているかどうか、が重要です。途中で頓挫することを回避するためにはクラブ全体の強い「総意」が必要です。国際奉仕活動の現場は、海外だけではなくありません。国内でも「国際奉仕活動」は出来ます。手を差し伸べる必要がある対象は、国内に在住の外国人労働者やその家族、留学生などです。

第2780地区では、国際奉仕活動の実現に向けて、地区内でのより効率的で役に立つ情報ネットワーク構築を目指しています。地区の各クラブリーダーと地区国際奉仕委員会との情報ネットワークが基本的な「繋がり」となり、その強化が最優先されます。地区のリーダーとの情報ネットワークの強化、データベースの拡大と具体化、最新情報の共有化、外部専門家とのネットワークの開拓とその関連情報の共有化、地区ホームページを活用して情報の集中化、といったことが課題です。

国内での社会奉仕活動と違い、国際奉仕の世界の新たな取り組みには多くのハードルがあり、また関連情報も入手にくい面があります。ロータリーの「輪」をうまく活用して、他のクラブと一緒に協働してプロジェクトを進めることも選択肢かも知れません。

このような内容でした。続きは、次回以降にご報告いたします。

幹事報告 なし

出席報告

会員	26名	出席率	84.00%
欠席	5名	前回の修正出席率	68.42%
(免除者)	1名	前々回の修正出席率	88.00%
ゲスト	1名	事前メイクアップ	0名
ビジター	0名		

ゲスト 湯河原町長 富田 幸宏 様

連絡事項

1.次週の例会は創立60周年記念例会です。17時よりエキシブ湯河原離宮におきまして実施致します。皆様ご出席をお願いいたします。

スマイルBox

湯河原町長 富田幸宏様

卓話をさせていただきます。機会をいただき誠に有難うございます。

安江仁孝君

奉仕デークリーンアップ並びに合同例会ご参加の皆様ありがとうございました。特にクリーンアップからご参加の皆様、バスを手配してくださった石田会員には奉仕デー実行委員として篤く御礼申し上げます。

石田浩二君

本日4月15日(金)当社16軒目となります、グリーンパル那須(客室20部屋)がリニューアルを終えてオープンいたしました。

小倉高代君

4月1日成年年齢引下げにより、ゆがわら中央高等学院は「横浜地方検察庁」の方をお迎えし、「法教育」をさせて頂きました。

小倉高代君

熱海市生涯学習課が企画して下さり、本年度熱海市内公民館4か所、延べ144名の「初心者向けスマホ教室」を開催します。

4月20日は我がクラブの創立記念日なので全員でスマイル



皆様こんにちは。今回は「湯河原エリアをモデル地域とした『地域旅館の高付加価値化』プロジェクト」について、神奈川県議会選挙区の「強制合区」についてお話ししたいと思います。

・地域旅館産業の実情と湯河原町における地域旅館の面的再生に向けて

令和2年5月、観光庁が全国の旅館約1600軒を対象に行ったアンケート調査から、地域旅館産業の実情が明らかとなりました。昨今の旅館において、資金調達意欲が旺盛な「成長・新興旅館群」は全体の約2割に留まる一方、地域で中心的な地位を占めつつも、積極的な資金調達意欲は乏しい「成熟旅館群」が約5割、そして生産性が低く、赤字傾向が目立つ「衰退旅館群」が約3割存在していることが判明しました。特に衰退旅館群の中で経営困難となった旅館は、事業承継への行動意欲が乏しいといった特徴が見受けられ、こうした旅館の受け皿整備は急務といえます。

そもそも現代の地域旅館産業は、投資の停滞、施設の老朽化やサービス停滞による客単価の低水準化がさらなる施設の老朽化を招く、いわば「負のスパイラル」に陥りやすい構造的課題を抱えています。こうした課題の克服のため、地域旅館自体が生産性向上に取り組めるような仕組み、関係省庁や金融機関による分かりやすい支援制度、地域の有力旅館やDMO（観光地域づくり法人）を旗印としたプロジェクトの牽引役が求められています。

こうした実情もあり、観光庁の要請により当町も参加していた「日本旅館の生産性向上・インバウンド対応の強化等を加速するための新たなビジネスモデルのあり方等に関する検討会」並びに「旅館への投資の活性化による『負のスパイラル』解消に向けた支援の在り方に関する分科会」において、①旅館の経営環境の厳しさが増す中、所有と経営の分離や事業承継等による経営効率化に取り組む必要性 ②地域旅館への投資の呼び込みや面的再生、生産性向上を図るための課題の整理・支援策の検討 が提言されました。さらに湯河原町は、いわば日本の縮図ともいえる事象があることから、観光庁により当町をモデル地域として、持続可能な温泉旅館街における地域旅館の高付加価値化を検討することとなりました。

・地域旅館の高付加価値化プロジェクトの構成と取り組み

プロジェクトは観光庁を頂点に、金融機関と湯河原町がぶら下がり、地域旅館や関連事業者と連携していく構成となっています。令和3年度において湯河原町では、民間事業者が旅

館再生等に向けた国の補助金（観光庁：訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業費補助金、既存観光拠点再生・高付加価値化推進事業）を活用できるよう、既存観光拠点再生計画を策定し、地域旅館の高付加価値化へ取り組みました。

計画の概要として、湯河原町の観光業の現況（日帰り客の増加と魅力ある旅館の減少）から、湯河原町の観光地としての素地の高さを宿泊客の増加に結びつけるための取り組みの必要性を概観し、「日帰りでは楽しみ切れない街」をコンセプトに据えた取り組みを実践することとしました。

具体的には ・ニューマネー及び事業者の創出を実現するための所有と運営を分離するスキームの導入 ・空き店舗改修による街並み整備 ・MaaS 導入による温泉街へのアクセスの向上（本事業では実証実験） ・スマホを活用したアクティビティの開発 ・宿泊者向けイベントの継続的開催 の実施で、これらにより魅力ある旅館の増加を促します。この計画により、2025年には年間宿泊者数を2019年比10%増の73万人とする想定を行っています。民間事業者による実施事業の詳細については、お手元にお配りした資料をご確認ください。

令和4年度では、前年度からの流れを止めないため、新たに観光庁が創設した「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化」の補助事業に対し、町と旅館組合等が協力して補助金の獲得に向け協議を始めています。

・神奈川県議会「強制合区」について

既報の通り、神奈川県議会（定数105）の選挙区について、足柄下選挙区（湯河原、箱根、真鶴町）は地方自治法第90条並びに公職選挙法第15条に基づき、他選挙区との「合区」に向けた議論が進められています。懸案は足柄下選挙区の合区先ですが、小田原や南足柄などの隣接する選挙区や人口などを総合的に勘案し、枠組みが長期的に維持されると考えられる「南足柄選挙区＋足柄下選挙区」の合区（それまでの「南足柄＋足柄上」を分離）を軸に検討されています。詳細につきましてはお手元にお配りした資料をご確認ください。

本日もありがとうございます。



葉 維英君
4/4



ご夫人誕生日
土屋一弘君
(節子様 4/25)

(編集 4月会報担当: 櫻井武志 / クラブ会報委員会)